

平成29年度 佐賀県立武雄青陵中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。 ・信義礼節を重んじ、情操豊かで、心身ともに健康な生徒を育成する ・自分の考えに自信を持ち、他を思いやり生き生きと自己表現できる生徒を育成する ・国際的視野と高いコミュニケーション能力を持つ生徒を育成する	高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし継続性を持った中高一貫教育の推進。 ・学力向上と進路支援の充実 ・生徒指導の充実 ・保健・安全指導の徹底 ・保護者・地域との連携 ・組織力の向上

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●学力向上	・指導計画 ・評価計画	・わかる授業・学びのある授業を展開するための計画を策定する。	・指導と評価の一体化が図れる指導計画及び評価計画を策定する。
		・学習環境	・個に応じた指導ができる環境をつくる。	・TTや習熟度別指導を適宜採り入れるなど、学力差が広がらない工夫を講じる。
		・授業改善	・自ら考え取り組む、主体的な学習が身につく指導を行う。	・「めあて」を明示する。 ・授業を振り返る場面を設定する。 ・個別演習、グループワーク、『学び合い』、アクティブラーニングなどの多様な展開を活用する。 ・思考力・判断力・表現力を育む発問や課題を採り入れる。
		・授業外の指導改善	・自ら考え取り組む、主体的な学習が身につく指導を行う。	・能力に応じて学力向上が図れるような補習授業を実施する。
		・家庭学習	・家庭学習が充実するよう指導を行う。	・授業と関連付けた課題を与える。 ・宿題の意味ややり方を具体的に指導し、次の学びにつながることを理解させる。
		・学習評価	・適正な評価の実施に努める。	・評価計画を生徒及び保護者に配布し、学習評価について理解を深めてもらう。 ・評価結果について説明責任が果たせるよう、適宜評価方法や評価時期の検証を行う。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	・ICT機器の活用	・生徒の授業理解、学力向上に資するICT機器の活用に努める。	・ICT機器の利点を認識したうえで、効果的な場面で積極的に活用する。 ・市販のデジタル教材に加え、汎用性・応用性のある教材を作成し、授業で積極的に活用する。

② 進路支援の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・学習支援	・学習習慣の基礎が身につく。	・学習会や宿泊研修の機会を活用し、教科ごとに学習の仕方などを説明する。
	○キャリア教育	・体験活動	・職業観、勤労観が身につく、又は身に付けようと努力する。	・外部講師を活用した職業講話、職場体験、職場見学、また職業調べ等を実施し、仕事や働く意味について考える契機とする。
		・探究活動	・将来にわたる自己の在り方・生き方について考える。	・調べ学習やディスカッションを採り入れるなど、「探究」の時間を充実させる。

③ 生徒指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・道徳教育	・他者を尊重し、互いの個性を認め合うことができる。	・ふれあい道徳を充実させる。 ・がん教育により、がんを通して命と向き合う。
		・礼儀作法とマナー	・率先して挨拶ができ、言葉遣いにも注意を払うことができる。	・登校指導をはじめ日常的に挨拶指導や言葉遣いの指導行う。
	●いじめの問題への対応	・いじめの撲滅	・他者の痛みがわかり、正しい判断や行動ができる。 ・いじめゼロの学校にする。	・いじめを許さない学校づくりを目指した生徒会活動や学級活動に取り組む。 ・面談や生活アンケートを活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、いじめの芽を早期に発見する。 ・いじめ・体罰等対策委員会において、事案発生時の対応について共通理解を図り、また教職員全体でも共通理解を図る。

④ 保健・安全指導の徹底				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・生活習慣の確立	・3点(起床、学習開始、就寝)固定を定着させる。 ・朝食摂取率を95%以上にする。	・SDノート等を用いて生徒の生活実態を把握し、教育相談などを利用して適切に指導・助言を行う。 ・朝食の摂取状況について調査し、食育だよりや保健だより等で朝食の大切さについて呼びかけるとともに、保護者への協力を依頼する。
		・自己管理	・健康に対する意識を高め、健康の保持・増進に努める。	・健康診断の意義・必要性について事前指導を行い、検診率の向上を図る。 ・健康増進を図るため、健康診断の結果をもとに個人指導に努める。 ・「保健だより」発行などを通して、身近な保健情報を提供する。
		・ストレスマネジメント	・心身の健康バランスを考えた生活ができる。	・月に1回実施する生活アンケートや教育相談を通じ生徒の実態把握に努めるとともに、適切な声掛けを行う。 ・いじめアンケートを実施して、いじめの未然防止に努める。
	○美化活動	・清掃活動及びボランティア活動	・環境・美化意識の向上を図る。	・環境及び美化意識の向上を図るため、日々の清掃活動及び校外清掃活動等を充実させる。
	○安全教育	・安全教育	・安全・安心な生活に対する意識を高める。	・不慮の災害等に備え、防火訓練、避難訓練等を実施する。
⑤ 保護者・地域との連携				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○保護者・地域との連携	・情報発信	・学校の教育活動に対する理解が深まる。	・HP、学校だより、学級新聞など、様々なメディアを通じて教育活動に関する情報発信を行う。
		・開かれた学校づくり	・地域と学校の関わりを具体化し、開かれた学校づくりを目指す。	・地域や地元自治体のイベントに参加したり活用したりする。 ・地域への奉仕活動を実施する。
⑥ 組織力の向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○組織力	・校務分掌	・校務分掌の機能を合理化する。	・次年度の学校運営を見据え校務分掌の見直しを行い、合理的な運営ができる組織を再構築する。 ・業務の偏りをなくす。
		・組織間の連携	・発生した問題には、チームで迅速かつ的確に対応する。	・学年、校務分掌、管理職の間の連絡を密に行い、情報共有を徹底する。
⑦ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上 ○心の教育	・読書活動の推進	・豊かな心と高い志を育成するため、良質な本に数多く触れる。 ・読書習慣が身につく。	・多数の教員による選書を通して、良質な本を数多く購入するとともに、学校だより等で生徒達に読ませたい本を紹介する。 ・2ヶ月に1回図書館だよりを発行し、図書館にある本を紹介して、生徒が図書館に足を運ぶようにする。
	○グローバル化	・国際交流	・積極的に国際交流に取り組み、異文化理解、自国文化理解に努める。 ・英語によるコミュニケーション能力が向上する。(英検2級・準2級を合わせて70名以上、3級を100名以上に)	・「探究」の時間を活用し、国際交流の機会を設ける。 ・姉妹校(韓国:華陽中学校)との交流活動を充実させる。 ・様々な国際交流事業を紹介し、積極的な参加を促す。

●は共通評価項目、○は独自評価項目